

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成29年8月10日

【四半期会計期間】 第85期第2四半期(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

【会社名】 新報国製鉄株式会社

【英訳名】 SHINHOKOKU STEEL CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 成 瀬 正

【本店の所在の場所】 埼玉県川越市新宿町5丁目13番地1

【電話番号】 049 242 1950

【事務連絡者氏名】 総務部長 小 林 民 雄

【最寄りの連絡場所】 埼玉県川越市新宿町5丁目13番地1

【電話番号】 049 242 1950

【事務連絡者氏名】 総務部長 小 林 民 雄

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第84期 第2四半期 連結累計期間	第85期 第2四半期 累計期間	第84期
会計期間	自 平成28年1月1日 至 平成28年6月30日	自 平成29年1月1日 至 平成29年6月30日	自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日
売上高 (千円)	3,160,706	2,526,395	5,616,825
経常利益 (千円)	668,100	336,170	585,637
四半期(当期)純利益 (千円)	444,244	836,820	483,775
持分法を適用した場合の 投資利益 (千円)			
資本金 (千円)	175,500	175,500	175,500
発行済株式総数 (株)	3,510,000	3,510,000	3,510,000
純資産額 (千円)	2,501,583	2,946,134	2,131,786
総資産額 (千円)	5,548,427	5,706,876	4,324,452
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	134.19	252.77	146.13
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
1株当たり配当額 (円)	10.00	10.00	20.00
自己資本比率 (%)	45.1	51.6	49.3
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	526,555	182,184	
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	652,058	254,227	
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	298,770	429,949	
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	1,058,301	804,990	

回次	第84期 第2四半期 連結会計期間	第85期 第2四半期 会計期間
会計期間	自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日	自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	39.46	58.04

(注) 1 当社は、平成29年1月1日付で連結子会社であった株式会社新報国製鉄三重を吸収合併したことにより連結子会社がなくなったため、第85期第2四半期累計期間は、四半期連結財務諸表を作成しておりません。なお、前連結会計年度まで連結財務諸表を作成しているため、主要な経営指標等の推移については、第84期第2四半期連結累計期間は四半期連結財務諸表について、第85期第2四半期累計期間は四半期財務諸表について、第84期は財務諸表について記載しております。

2 売上高には消費税等は含まれておりません。

3 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社がないため記載しておりません。

4 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式がないため、記載しておりません。

- 5 平成28年12月期より連結子会社の会計年度終了日を10月31日から連結会計年度と同じ12月31日に変更しております。これに伴い第84期第2四半期連結累計期間における連結子会社の業績は、平成27年11月1日から平成28年6月30日までの8ヶ月間の業績を反映しております。

2 【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。なお、平成29年1月1日付にて、連結子会社であった株式会社新報国製鉄三重を吸収合併いたしました。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当社は、平成29年1月1日付で連結子会社であった株式会社新報国製鉄三重を吸収合併いたしました。

これにより、当期決算より従来連結で行っておりました決算を単体決算に変更いたしました。なお、当第2四半期累計期間は単体決算初年度にあたるため、前年同四半期の数値及びこれに係る対前年同四半期増減率等の比較分析は行っていません。

(1) 経営成績の分析

当第2四半期累計期間における我が国経済は、国内においては、公共投資、民間設備投資の増加と個人消費の緩やかな回復、海外においては、米国、ヨーロッパの先進国をはじめ中国、アジア経済の堅調により、内外需とも底堅く推移し、回復基調が続いています。

このような状況の中で、当第2四半期累計期間における当社の経営状況は、第1四半期には主力製品である低熱膨張合金が、半導体製造装置関連、液晶製造装置関連の出荷が昨年同期より続いた一時的なお客様の在庫調整などの影響で若干低調でしたが、当第2四半期から通常の水準に戻りました。また、シームレスパイプ用工具の需要回復はもう少し時間がかかると考えられますが、売上高、営業利益とも当初予想通り順調に回復いたしました。

以上の結果、当第2四半期累計期間における売上高は2,526百万円（上期予想に対して109.8%、通期予想に対する進捗率50.5%）となりました。営業利益は319百万円（上期予想に対して127.4%、通期予想に対する進捗率46.8%）となり、経常利益は336百万円（上期予想に対して129.3%、通期予想に対する進捗率48.0%）となりました。四半期純利益は株式会社新報国製鉄三重の吸収合併に伴う特別利益「抱合せ株式消滅差益」596百万円の計上により837百万円（上期予想に対して107.3%、通期予想に対する進捗率77.5%）となりました。

セグメントの業績は次のとおりです。

特殊合金事業

特殊合金事業は上述の通り、低熱膨張合金が回復したことにより売上高は2,448百万円、営業利益は257百万円となりました。

不動産賃貸事業

不動産賃貸事業は特段の変化はなく、売上高は79百万円、営業利益は62百万円となりました。

(2) 財政状態の分析

総資産は、前事業年度末より1,382百万円増加し5,707百万円となりました。これは主に有形固定資産の増加額1,031百万円、仕掛品の増加額414百万円及び投資その他の資産の減少額619百万円等によるものです。

負債は、前事業年度末より568百万円増加し2,761百万円となりました。これは主に長期借入金の増加額825百万円、短期借入金の減少額358百万円等によるものです。

純資産は、前事業年度末より814百万円増加し2,946百万円となりました。これは主に利益剰余金の増加額804百万円等によるものです。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物は、前事業年度末に比べ104百万円増加し805百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、182百万円となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益935百万円の増加要因が抱合せ株式消滅差益596百万円及びたな卸資産の増加額219百万円等の減少要因を下回ったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、254百万円となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出249百万円等によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、430百万円となりました。これは主に短期借入金の純減少額400百万円及び長期借入による収入900百万円等によるものです。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において、当社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期累計期間の研究開発費の総額は71百万円であります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	6,000,000
計	6,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成29年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成29年8月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	3,510,000	3,510,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	3,510,000	3,510,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成29年4月1日～ 平成29年6月30日		3,510,000		175,500		133,432

(6) 【大株主の状況】

平成29年6月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
新日鐵住金株式会社	東京都千代田区丸の内2-6-1	509	14.5
株式会社湊組	和歌山県和歌山市湊2-12-24	270	7.7
石田龍山	京都府京都市左京区	165	4.7
株式会社埼玉りそな銀行	埼玉県さいたま市浦和区常盤7-4-1	157	4.5
株式会社山本本店	三重県桑名市中央町3-23	107	3.0
日東紡績株式会社	福島県福島市郷野目字東1	100	2.8
岩井コスモ証券株式会社	大阪府大阪市中央区今橋1-8-12	65	1.8
松井証券株式会社	東京都千代田区麹町1-4	59	1.7
清水長助	鹿児島県鹿児島市	57	1.6
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	東京都千代田区丸の内2-5-2	45	1.3
計		1,534	43.7

(注) 上記のほか当社所有の自己株式199千株(5.7%)があります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成29年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 199,400		
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,303,800	33,038	
単元未満株式(注)	普通株式 6,800		
発行済株式総数	3,510,000		
総株主の議決権		33,038	

(注) 「単元未満株式」には、当社所有自己株式64株が含まれています。

【自己株式等】

平成29年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 新報国製鉄株	埼玉県川越市新宿町 5 - 13 - 1	199,400		199,400	5.7
計		199,400		199,400	5.7

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号)に基づいて作成しております。

なお、当社は第1四半期会計期間より四半期財務諸表を作成しているため、四半期損益計算書及び四半期キャッシュ・フロー計算書に係る比較情報を記載しておりません。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間(平成29年4月1日から平成29年6月30日まで)及び第2四半期累計期間(平成29年1月1日から平成29年6月30日まで)に係る四半期財務諸表について、新日本有限責任監査法人により四半期レビューを受けております。

3. 四半期連結財務諸表について

当社は、子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】
(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年12月31日)	当第2四半期会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	700,959	804,990
受取手形及び売掛金	2 869,497	776,313
電子記録債権	57,579	252,086
製品	180,356	224,280
仕掛品	450,516	864,457
原材料	697	194,927
未収入金	790,876	933,592
その他	104,523	68,787
貸倒引当金	172	195
流動資産合計	3,154,831	4,119,235
固定資産		
有形固定資産	369,822	1,400,329
無形固定資産	19,587	26,070
投資その他の資産	780,212	161,242
固定資産合計	1,169,621	1,587,640
資産合計	4,324,452	5,706,876
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	343,622	332,912
電子記録債務	2 593,151	638,073
短期借入金	423,433	64,981
未払法人税等	138,038	97,887
賞与引当金	20,200	14,584
その他	126,145	225,779
流動負債合計	1,644,590	1,374,216
固定負債		
社債	200,000	200,000
長期借入金	-	825,000
退職給付引当金	180,433	192,256
その他	167,644	169,270
固定負債合計	548,077	1,386,526
負債合計	2,192,666	2,760,741

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年12月31日)	当第2四半期会計期間 (平成29年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	175,500	175,500
資本剰余金	133,432	133,432
利益剰余金	1,851,785	2,655,500
自己株式	68,765	68,765
株主資本合計	2,091,953	2,895,667
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	39,833	50,467
評価・換算差額等合計	39,833	50,467
純資産合計	2,131,786	2,946,134
負債純資産合計	4,324,452	5,706,876

(2) 【四半期損益計算書】

【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年6月30日)
売上高	2,526,395
売上原価	1,844,038
売上総利益	682,357
販売費及び一般管理費	363,822
営業利益	318,536
営業外収益	
受取利息及び配当金	1,005
たな卸差益	10,114
その他	9,554
営業外収益合計	20,673
営業外費用	
支払利息	2,392
その他	646
営業外費用合計	3,039
経常利益	336,170
特別利益	
固定資産売却益	3,000
抱合せ株式消滅差益	595,515
特別利益合計	598,515
税引前四半期純利益	934,685
法人税、住民税及び事業税	71,132
法人税等調整額	26,733
法人税等合計	97,865
四半期純利益	836,820

(3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税引前四半期純利益	934,685
減価償却費	73,475
有形固定資産売却損益(は益)	3,000
貸倒引当金の増減額(は減少)	23
賞与引当金の増減額(は減少)	21,149
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	10,949
受取利息及び受取配当金	1,005
支払利息	2,392
売上債権の増減額(は増加)	127,392
たな卸資産の増減額(は増加)	218,936
仕入債務の増減額(は減少)	99,641
未収入金の増減額(は増加)	163,371
抱合せ株式消滅差損益(は益)	595,515
その他	11,792
小計	2,589
利息及び配当金の受取額	1,005
利息の支払額	2,287
法人税等の支払額	183,491
営業活動によるキャッシュ・フロー	182,184
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	249,397
有形固定資産の売却による収入	3,000
ソフトウエアの取得による支出	7,880
その他	50
投資活動によるキャッシュ・フロー	254,227
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額(は減少)	400,000
長期借入れによる収入	900,000
長期借入金の返済による支出	33,452
リース債務の返済による支出	3,786
配当金の支払額	32,812
財務活動によるキャッシュ・フロー	429,949
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	6,462
現金及び現金同等物の期首残高	700,959
合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	110,493
現金及び現金同等物の四半期末残高	804,990

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(追加情報)

当第2四半期累計期間 (自 平成29年1月1日 至 平成29年6月30日)
「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期会計期間から適用しております。

(四半期貸借対照表関係)

1 受取手形割引高

	前事業年度 (平成28年12月31日)	当第2四半期会計期間 (平成29年6月30日)
	51,437千円	千円

- 2 四半期会計期間末日満期手形等の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。なお、前事業年度においては当社の決算日が金融機関の休日であったため、次の前事業年度末日満期手形等を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前事業年度 (平成28年12月31日)	当第2四半期会計期間 (平成29年6月30日)
受取手形	1,291千円	千円
電子記録債務	170,331千円	千円

(四半期損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	当第2四半期累計期間 (自 平成29年1月1日 至 平成29年6月30日)
役員報酬	34,430千円
従業員給与	79,601千円
賞与引当金繰入額	3,989千円
退職給付費用	5,166千円
研究開発費	59,027千円

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	当第2四半期累計期間 (自 平成29年1月1日 至 平成29年6月30日)
現金及び預金	804,990千円
預入期間が3か月超の定期預金	千円
現金及び現金同等物	804,990千円

(株主資本等関係)

当第2四半期累計期間(自 平成29年1月1日 至 平成29年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年3月29日 定時株主総会	普通株式	33,105	10.00	平成28年12月31日	平成29年3月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年8月9日 取締役会	普通株式	33,105	10.00	平成29年6月30日	平成29年9月1日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第2四半期累計期間(自 平成29年1月1日 至 平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	合計
	特殊合金事業	不動産賃貸事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,447,832	78,564	2,526,395		2,526,395
セグメント間の内部売上高 又は振替高					
計	2,447,832	78,564	2,526,395		2,526,395
セグメント利益	256,509	62,027	318,536		318,536

(注) セグメント利益の合計額は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	当第2四半期累計期間 (自 平成29年1月1日 至 平成29年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	252円77銭
(算定上の基礎)	
四半期純利益金額(千円)	836,820
普通株主に帰属しない金額(千円)	
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	836,820
普通株式の期中平均株式数(株)	3,310,536

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

第85期(平成29年1月1日から平成29年12月31日まで)中間配当について、平成29年8月9日開催の取締役会において、平成29年6月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額 33,105千円
 1株当たりの金額 10円00銭
 支払請求権の効力発生日及び支払開始日 平成29年9月1日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年 8月10日

新報国製鉄株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 久 保 隆

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 飯 塚 正 貴

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている新報国製鉄株式会社の平成29年1月1日から平成29年12月31日までの第85期事業年度の第2四半期会計期間(平成29年4月1日から平成29年6月30日まで)及び第2四半期累計期間(平成29年1月1日から平成29年6月30日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、新報国製鉄株式会社の平成29年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。